

令和4年塩尻市議会 11月臨時会

総務産業常任委員会会議録

○日 時 令和4年11月8日（火） 午前10時29分

○場 所 全員協議会室

○審査事項

議案第 1号 副市長の選任について

○出席委員

委員長	中野 重則 君	副委員長	赤羽 誠治 君
委員	牧野 直樹 君	委員	柴田 博 君
委員	丸山 寿子 君	委員	中村 努 君
委員	青柳 充茂 君	委員	横沢 英一 君
委員	篠原 敏宏 君		

○欠席委員

なし

○説明のため出席した理事者・職員

別紙名簿のとおり

○議会事務局職員

事務局長	小松 秀典 君	事務局次長	小澤 秀美 君
事務局係長	酒井 千鶴子 君		

午前10時29分 開会

○委員長 ただいまから 11月臨時会総務産業常任委員会を開会いたします。本日の委員会は委員全員が出席しております。また、本日は議案の内容を受け、議長に申し出て、議長から百瀬市長に総務産業常任委員会への出席を要求しております。

それでは、審査に入る前に理事者から挨拶をお願いいたします。

理事者挨拶

○市長 本日は大変お忙しい中、総務産業常任委員会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。御提案を申し上げます議案につきまして、よろしく御審査を賜りますようお願い申し上げます。

○**委員長** ありがとうございます。本日の日程を申し上げます。当委員会に付託された議案は別紙委員会付託案件表のとおりであります。それでは、臨時会でもありますので、早速、ただいまから議案の審査を行います。円滑な議事進行のため、委員長の指名を受けた者のみの発言とし、簡潔明瞭な説明、一問一答方式による質問、答弁を心がけていただくよう御協力をお願いいたします。また、発言は必ずマイクを通していただきますようお願いいたします。

議案第1号 副市長の選任について

○**委員長** それでは、議案第1号副市長の選任についてを議題といたします。説明を求めます。

○**総務人事課長** それでは、議案第1号副市長の選任についてをお願いいたします。議案関係資料にて説明いたしますので、議案関係資料1ページをお願いいたします。

1の提案理由ですが、副市長の選任について、地方自治法第162条の規定により、議会の同意を求めものです。

2の概要ですが、副市長の米窪健一朗氏が令和4年9月30日に退任したことに伴いまして、新たに石坂健一氏を適任者と認め、選任しようとするものです。議会からの同意が得られましたら、その後、庁内での事務手続を進めてまいりまして、予定では令和4年11月14日をめどに選任したいとするものです。任期につきましては、令和4年11月14日からですと、令和8年11月13日までの4年間です。

略歴につきましては、裏面2ページの別記に記載してありますので、御参照いただきたいと思います。私からは以上になります。

○**委員長** ありがとうございます。それでは、質疑を行います。委員の皆さんから質問はありますか。

○**中村努委員** 市長にお伺いします。塩尻市始まって以来の民間からの副市長の選任ということで、市長の民間からの選出ということに対する思い入れをお聞きしたいということと、石坂さんの率直なお人柄、あるいは、こんなところを評価しているという点があればお聞かせいただきたいと思います。

○**市長** まず、1点目の民間からの登用に関する件ですけれども、今まで小売店で働いてきまして、当然、多くのお客様とも接してきておりますし、また、会社を運営する、経営する立場からのマネジメントであり、小売店ですので、より良いものをお客様に提供するというサービス、そういったところのノウハウを培われたところを一番は期待しております。どうすれば時代に合った、今の社会情勢とか環境に合った、市で言えば市民がお客様だと思いますけれども、そのお客様がどういうふうになせになるか、喜ぶか、そういった点を心得ております。そういったところに民間からの登用で期待するところです。

2点目の人柄ですが、物腰は非常に穏やかな方ですけれども、今までの経験の中で、大きな決断をしなければならなかったときもあったと聞いております。物腰は穏やかでありますけれども、決めた方向に突き進む力、突破力、そういったものは非常に長けていると、そのように私は評価をしております。

○**委員長** よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○**柴田博委員** 今の質問と関連しますけれども、民間から起用ということについて、当初の段階で石坂さんが頭にあってそういうことを言ったのか、今の説明だと、そのように聞こえたのですけれども、一般的に民間からなぜ登用するかということについてはどうなのでしょう。

○市長 私は選挙の公約の中で、民間からの副市長の登用を訴えておりました。そのときに石坂さんがあって、そういう公約をつくったものではありません。民間から登用する大きな意味というのは、行政内部でありますと、ある程度行政的な固定観念ができてしまっていると思っております。そういった固定観念を、一般的な言葉で受けけれども、いわゆる民間感覚で打破していきたいと考えております。

それと、もう1つは、私自身が29年間、ずっと市役所のみで働いてきた人間でありますので、補佐役となる副市長には、行政側からの出身でない知見を持った方が適任だろうと思ひ、選挙の公約の中で副市長の民間登用を掲げてまいりました。

○委員長 よろしいですか。ほかには。

○篠原敏宏委員 1点お伺いします。石坂さん、既に市の仕事を1つされていると、これは立場が違いますが、噂も含めて聞いております。そういった中で、既にもう動き出している現場の中では、石坂さんが提案された、あるいは、構築された仕掛けが既に動いていると理解しますが、それに関する市長の評価は率直にどうですか。

○市長 お話がありました件は、今、地場産業振興センターが長野県観光機構と経営のアドバイザー契約を結んでおります。そのチームの一員が石坂さんでありまして、今回の地場産業振興センターのリニューアルオープン等に関しましてもいろいろなアドバイスをいただいております。石坂さんと契約をしているわけではなくて、県の観光機構と契約をしております、県の観光機構がチームとなって進めている事案ですので、この副市長の選任がそこに大きな影響を与えるものではないと私は理解しております。

○委員長 よろしいですか。

○篠原敏宏委員 今の答弁で分かるし結構なのですが、石坂さんがその中でも主体的に観光機構の中でリーダーシップを取られて、今言われるとおりののですが、彼の意向が既に色濃く反映しているというように私は理解しております。その結果、地場産業振興センターも運営、あるいは経営上も好転していると外からは見られるので、そういう影響を既にもたらしてくれている方かなと想像しての質問であります。そういう意味で、踏み込んだ評価があるかと思いましたが、結構です。

○委員長 よろしいですか。ほかには。

○牧野直樹委員 市長より年上ということで、4年間、年上の奥さんと一緒に市政を運営していくということで、やりにくいとかやりやすいとか、その辺がすごく心配になるのだけれど。まして、市長は今まで公務員生活を30年近くやってきた。この方は高校を出て民間の商売をやってきたということで、全く今まで歩んできた経験が違おうと思うのです。そこで、市長がこれからやっていくのだけれど、手綱をうまく調整できて、ただ突っ走られても止めるとか、そういうことができるかどうか。そういう自信とか。今、木曾の地場産センターでたまたま一緒に、ある程度はお話をしたと思うのだけれど、市長がこれから4年間この方と相思相愛でやっていく、その辺の市長としての覚悟をお聞かせください。

○市長 今回の御質問のありました点ですけれども、経過をお話ししますと、私が平成30年に産業政策課長をしていたときに、石坂さんが県の観光機構に綿半から出向されてきて、そこで初めてお会いしました。以降4年間、いろいろなところで、観光、産業といったところで仕事をしてまいりましたので、打合せをする中でお人柄であり、考え方であり、そういったところを見極めた上で、今回、副市長の選任をお願いしているところです。

年上だからということで、年齢差を感じさせるタイプの方ではありません。今、いわゆる相思相愛というお言

葉がありました。そこは、私は市長でありますので、長としての一番の責任を全うすべく進めてまいりますし、石坂さんはそれを補佐する役ということ、今も石坂さんとお話ししますと、きちんと補佐をしていくという言葉を受けております。どこかで必ず、お互いぶつかる時も当然、事業のことですのであろうかと思えます。ぶつかって、市長、副市長で意見を交わすのも大事な市政発展のための一つの要素です。いわゆる忌たない意見を交わしながらも相思相愛、あうんの呼吸で市政を進めてまいりたいと考えております。端的に申し上げますと、自信はあります。

○**牧野直樹委員** 全く塩尻に住んだことがない。長野市から塩尻市に嫁に来るわけです。私の女房も塩尻市でないところから嫁にもらって、4年は苦勞したと思うのです。4年間、しっかり見させていただいてということで、私は応援するということにします。

○**委員長** ほかに、よろしいでしょうか。

それでは、質疑を終了いたします。これより自由討論を行います。ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○**委員長** 次に、議案に対する討論を行います。ありませんか

〔「なし」の声あり〕

○**委員長** ないので、採決を行います。議案第1号につきましては、原案のとおり同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○**委員長** 異議なしと認め、議案第1号副市長の選任については、全員一致をもって同意すべきものと決しました。

以上をもちまして、当委員会に付託されました議案審査は全て終了いたしました。なお、当委員会の審査結果報告書及び委員長報告につきましては、委員長に御一任願いたい、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○**委員長** 異議なしと認め、そのようにいたします。

最後に、理事者側から挨拶があればお願いいたします。

理事者挨拶

○**市長** 本日は、御提案を申し上げました議案につきまして御審査を賜り、原案のとおりお認めをいただきまして、誠にありがとうございました。

○**委員長** ありがとうございました。

以上をもちまして、11月臨時会総務産業常任委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

午前10時43分 閉会

令和4年11月8日（火）

委員会条例第29条の規定に基づき、次のとおり署名する。

総務産業常任委員会委員長 中野 重則 印